

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより15番石橋敏伸の一般質問をさせていただきます。

先ほど、議員3名終わられましたけれども、私はもっと2時ぐらいからの予定で、ちょっと緊張しているところであります。それでも始めていきたいと思います。

私のふるさと西川登町では、朝の空気を震わせて、もう既にウグイスが鳴いています。地球温暖化、異常気象のせいか、今年は例年より少し早い初音が聞かれるようになりました。けさもその妙なる音色に、ほのぼのとした感じで、その余韻を覚えながら本議会に臨んでまいりました。

さて、ことわざに、何々の鳴かぬ日はあっても云々という言葉がありますが、カラスの鳴かぬ日はあっても、がばいばあちゃんが話題に上らない日は一日もないと言われるぐらいに、がばい効果は日ごとに高まり、県内新聞はもちろん、全国各地に主要ロケ地武雄の名が広まりつつあり、その抜群のPR効果に、市民の一人として、まことに御憧憬にたえないところであります。これもひとえに、樋渡市長の卓抜した行動力と、市役所、市民一丸となったまちおこしへの強い願いと行動のたまものだと思っております。ますます評価は高まっております。不肖私もまちおこしの運動に参加し、ともに行動した一人として、うれしく思っております。しかし、何事も光と影があるように、どんなすばらしい事業でも、その手法に対しては評価と懸念があるのもまた事実であり、私はいずれの思いも大切にすべきだと思っております。

先般、政務調査でトライアスロンの世界大会を開催した沖縄県石垣市に参りました。東シナ海に浮かぶ孤島、人口わずか4万7,000人の石垣島が、トライアスロンの競技開催を市民挙げての行事として成功させ、全世界に名を上げたことを学んでまいりました。ここに2月18日の佐賀新聞がありますが、平成12年には4万3,000人の人口が、平成15年には人口4万7,000人となり、3年間で4,000人も増加し、坪30千円の土地が今では150千円に急騰し、余りの評判に、生活道路や教育施設、医療環境の整備が追いつかず、市民がうれしい悲鳴を上げている記事が書かれております。

私は今議会に、市勢の振興に関し大きく二つの質問を通告いたしております。

まず第1は、市町村合併によってますます辺地となった周辺地区の実情と、その対応、地域活性化の諸問題であります。急激に過疎化し、村落として、その地域としての機能を果たせなくなり、ついに消滅した地域のことが、今日大きな社会問題になっております。その状況こそ異なりますが、その悩みと不安は私たちにとっても決して人ごとではありません。

今回のがばいばあちゃんをめぐる一連の市民運動は、単に観光宣伝やPR効果以上に、ロケに参加した武雄の子供たちやお年寄りの方々にも、やればできるという大きな自信と、やり遂げた達成感、ある種の満足感とともに、今後のまちおこしについて、大きな示唆を与

えてくれたような気がいたしております。要は、今後この体験と実践をどう生かすかということが大切だと思っております。

そこで、カンコロ学校についてお尋ねいたします。

カンコロ学校は、これは御存じのとおり、がばいばあちゃんのロケ地になった、あの西川登保育所の愛称です。カンコロ学校とは、昭和の学制改革による西川登村立中学校の建設のとき、貧しい一閑村であった西川登村が、地域の子供たちに立派な教育の場ということで、当時、村の特産物の第一とされた芋を加工してカンコロ芋をつくり、付加価値をつけて、村民全員でその売り上げで中学校をつくり、その中学校が西川登保育所となり、今回、歴史と地域の人々の、子供たちへの愛情のこもった、がばい学校のロケ地となった経過があります。今回のロケに対しての監督、スタッフの方々の反響も交えて、このカンコロ学校については教育長に、今後の活用については市長にお尋ねいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

今回、西川登小学校周辺が撮影で取り上げていただきましたことに対して、西川登町民の皆さん方も大変光栄なことだったと思っております。私も5年間西川登小学校に赴任をしておったわけですが、赴任早々、町民の皆さんからお話を伺ったのが、今議員がお話しになったことでございます。その西川登村立西川登中学校の建設につきましては、先ほどのお話のように、村民の皆さん方の思いと、それから、子弟を磨き上げることが何よりの地域浮揚につながるという、そういう熱い願い、そして、先祖が営々と育ててくれた、村内で、要するに今で言えば、西川登町内で育った木材を使って、しかも、そこに生計を立てていただいております大工の皆様方、こういう方々のたくみの技を、あの校舎に生かしてできたんだよと、こういうお話を伺ったところでございます。

そういうお話を聞きますというと、先人の皆様方の地域への熱意というのは、我々今生活する者として大いに感謝をし、学ばなければならないと、こういうふうに思っております。西川登のこれまでの教育に対する思いというものの、あるいは地域を誇りに思う町民の皆様方のすばらしい心意気といいますか、そういうものに対しては、ただただ頭が下がる思いで聞かせていただきました。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

西川登保育所に対する評価は抜群やったですね。監督、あるいは泉ピン子さん、よくもまあ残っておったもんだということで、非常に高い評価をいただきました。今回の武雄のロケ地が決まる大きなきっかけとなったというふうに考えております。そういう意味で、残して

いただいたことに非常に私は感謝をしております。今後のことについては、また御質問を受けてからお答えしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

大変ありがとうございます。いい評判を聞いて、ありがたく思っております。今日、学童保育の問題が懸念されている中で、町民挙げて地域ぐるみの子供たちの健やかな環境づくりに取り組む、その中で、西川登町まちづくり推進協議会が中心となって、老人会、婦人会、農協婦人部など、また、小・中学校が一体となった放課後児童クラブを、由緒あるカンコロ学校の跡地に地域総合の触れ合いセンター方式の施設をつくりたいと、跡地の貸与を強く希望していると聞いております。

一方、福祉施設関係からは、放課後児童クラブを西川登小学校の体育館内にする計画があると聞いておりますが、その点はどうなのか。地域としては単独の施設として、子供、老人、地域一帯の触れ合いの場を希望されているが、その点についてどうなのかをお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、地域の声を大事にしたいというふうに思っております。具体的に言うと、西川登のまちづくりの協議会、そして、NPO団体がちょっとあるかないかわかりませんが、まず、どういうふうに活用したいかということを、地元のお声を大事にしたいと。その上で、私からの願いは、全部が全部、何か単一の目的ではなくて、例えばあそこで、何かカンコロ学校という名のとおりの、昔食べよったとば、例えば給食に再現して出すとか、そういう付加価値のある使い方をぜひしてほしいというふうに思っております。

そうすることによって、今、武雄に観光バスのやっぱりふえてきよるです。そこで、来てもらって、そこで、振る舞いとかおもてなしをしてもらって、お金を落としてもらって、そこが地域の所得向上につながるように考えていただければありがたいというふうに思っております。いずれにしても、今後、映画になるかドラマになるかわかりませんが、必ずあそこはまたロケ地になると思いますので、そういう意味で、ぜひ活用の方策を、先ほど私が申し上げたことと同時に、まず、地元の人に考えてほしいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

市長の答弁の中で、地元と協議した上で、またお願いするところもありますけれども、カ

ンコロ学校をがばいばあちゃんに使っていただいたということは本当にうれしく思っております。第2弾で使っていただければ、また、なおさら町民としてうれしく思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

地方自治法第238条改正に伴う行政財産の貸与の規制緩和がなされると承知しておりますが、保育所跡地については、既に普通財産となっていると思いますが、その点はいかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

御質問の西川登保育所の跡地、土地と建物でございますけれども、これは平成17年4月に民間に経営を移譲する時点で、普通財産に切りかえているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

市有財産を、NPO法人やまちおこし団体の活動において有効活用されることを大きく期待しての発言であります。カンコロ学校を除く、ほかの市内20カ所に及ぶロケ地の利活用、その理念、方針についてお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大きく二つ考えております。

一つは景観であります。景観については、例えば若木の、あそこは本部ですか、のところに、あの景観を見に観光客の人の来よんさっわけですね。そういう意味で、その保全というのは、絶対必要かというふうに思います。

それと建物です。建物については、西川登の保育所を初め、きちんと保全をしたいと。壊すのではなくて、保全をした上で、先ほど申し上げたとおり、地元の触れ合いの場であるとか、あるいは観光客の皆さんに、何かこう、物を売ってもらって、それで、所得向上を図ってほしいと思います。

びっくりしたのが富良野であります。富良野でラベンダーを入れた小袋、これ幾らで売りよんさっと思うのでしょうか。逆質問したらいかんですね。800円で売りよんさっです、800円で。原価を聞きました。20円か30円なんですね。それは、しかも、そのラベンダーはもともと見ばえが悪かとは、市場に出されんとは詰めて、何とか袋って、お守り袋か安眠袋か知りませんが、それで売りよんさっわけです。それはどこがつくっているんですかと聞いたら、

婦人会がつくりよるって、婦人会が。だから、それで、その収益はどこに行きよっとですかと言ったら、いや、それは婦人会の活動経費と。

だから、そういうふうに、観光客も喜ぶ、いろんな団体も喜ぶ、そういうふうな、いい意味での所得向上、もうかることをぜひ考えていただきたいというふうに思います。カンコロは、私はナイスアイデアというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

カンコロ、今どきはありませんが、芋を少しつくってもイノシシがその前に食べてしまうもんで、なかなか田舎の方でも、芋のなかなか口に入らんところではありますが、また、そういった面でイノシシよけの対策もしながら芋をつくって、カンコロ芋どんつくって、活用させていただきたいと思います。

次に、総務行政についてお尋ねいたします。

他の島々が人口流出に頭を痛める中、石垣島の奇跡が起こりました。それを成功させたのは、担当者のアイデアと血のにじむような努力、自分たちのまちをどうにかしたいと、強い願いと意欲、情熱と資質を生かし、官民一体となって頑張った石垣市の努力と活力であります。ひいては、成功の理由を問えば、それは能力と意欲のある人材の発掘と人材育成、まさに適材適所の人事配置が、見事な成果を上げたということであります。人は石垣、人は城、ぴったりの言葉であります。

市長は、がばい課長選任に踏み切られたように、やる気を起こす人事登用、人事配置に非凡な能力をお持ちと聞いておりますが、この点いかがお考えか、人事は市長の専権事項ということはよく承知しておりますが、この際、お考えを聞かせてほしいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、給料だと思います。働いた人と働かん人の給料が同じだと言ったら、やっぱりそれはやる気は起きらんですね。石橋議員、ね、起きらんですね。それで、私が思うのは、ただ、公務員やっけんがですね、そがん極端に差をつける、どこで差をつけるというとはなかなかと思います。しかし、今回事務方が頑張って、例えば手当を定額化にしたということは、これは一つの大きなステップというふうに思っています。私が常々申し上げていることを、きちんと理解をしてもらっているというふうに思っています。

その上で、今後なんですけれども、やっぱりですね、私も公務員に長うおったです。短かったです、12年間おった、そのときに、出るくいは打たれます。それともう一つは、やる理由よりか、やらん理由ば考えよるわけですね。私もそがんでした。そうではなくて、武雄市

行政においては、失敗してもよかけんが、前に出てくる職員を私は処遇していきたいというふうに思っています。これなくして、人は石垣、人は城というとならんというふうに思っています。チャレンジしても失敗してもよかと。失敗したら市長の責任と、うまくいけば、自分たちの成果というふうに誇ってほしいと。今までそれが逆だったわけですね。これ、公務員全体です。その、何というんですかね、あり方、システムというのを今後変えていきたいというふうに考えております。そういう意味で、私、就任して1年になりつつありますけれども、かなり意識が変わってきました。ただ、まだ全体として変わっているところにはいっておりませんので、着実に地道に、そういう考え方がいいんだということを広げていきたいと、気合いを入れて答弁をさせていただきました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

ありがとうございます。私ちょっと済みません、一つ飛ばしていききましたけれども、最後につけさせていただきたいと思います。

その前によかでしょうか、済みません。地域活性化のこともう一点御質問させていただきます。

市役所商工観光課横の通路に、今回のロケ地写真が懐かしく展示されていますが、西川登町では、あの運動会の場面やイカダ遊びの弓野川は、今でもロケ地にたたずむ観光客の姿が見られますが、案内板を含め、その保全、活用についてもお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も忘れておりました。というのが、ともすれば、やっぱり淀姫神社とか、あっちの方にばかり目が行くわけですね。だから、ちょっと全体で見たときに、先ほど御指摘があったことについては、私もそのとおりだと思いますので、案内板の設置に向けては、これ、予算が足りんぎんだ、次の議会でも確保して、淀姫神社のほかの、例えば風景のところでも、これはどの場面で使われたかといったことを全市的にしていきたいというふうにして、なるべくなら番号を振っていこうと思っているんですね、番号。日本は巡礼の旅が好きやっけんですね、1番、2番、3番と。それで、できるならばスタンプ台を置きたいというふうに思っています。そうすれば、1カ所だけじゃなくて、何カ所も回っていくと。このスタンプが集まったら、協賛の地元の企業さんから何か景品をいただけるというように、見て回って、しかも、観光客の皆さんたちが回ってよかったと。ついでに健康にもよかったというふうに、一石何鳥になるぐらいのことを考えていきたいというふうに思っております。御指摘はあり

がたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

その観光地であります、川とか、自然なごみが流れてまいります。今、地元の方が、たまには観光客が見えるもんで、川の掃除とかをやっておられます。そういったことも耳に入っておりますので、市役所、行政の方からでも主導的にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。ボランティアでするのは私たちは一向に構いませんけれども、がばいばあちゃんのロケに対しては、当時、ロケ中は一生懸命行政もやっておられたと思いますが、後は観光客の中で、ごみがいっぱいあったら、何かおかしいところもありますので、そういった行政の方からでも御指導を下さるようお願いして、次に移りたいと思います。

ちょっと早過ぎますけれども、最後の質問になりますが、この夏、スローガンであります「この夏、佐賀に君色の風が吹く」県民待望の高校総体がもう既に秒読みの段階に入っております。日数のカウントダウンが始まりました。いよいよ7月28日開幕です。特に武雄は競輪場を中心に、8月9日から始まるトラック競技、8月12日の市内の特設コースで行われるロードレースに大きな期待が持たれています。武雄市の観光PRに願ってもないビッグチャンスはどう生かすか、どういう歓迎体制をとるかという、市勢の浮揚と観光の振興に連動する観点に立って、その対応についてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

高校総体における観光PRでございますけれども、高校総体の参加者、また一般の応援者の対しまして、もてなしの心で接して、武雄のリピーターとなっていいただけるように対応したいと考えております。

具体的な対応といたしましては、地元開催種目でありますバドミントン、それから自転車競技の選手、監督につきまして、武雄温泉の無料入浴券を配布すると。それからまた、他の競技種目の大会参加者、それと一般応援者に対しましては、武雄温泉の100円に入れるワンコイン入浴券を配布し、PRを図っていきたいと思っております。このほかに武雄温泉楼門付近におきまして、観光ボランティアガイドの方に案内をお願いしまして、大会参加者や一般応援者に対しまして、武雄の観光地の案内をしていただくということで計画をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

開催まであと4カ月余りということで、いよいよ詰まってきたなという思いがいたしております。それで、武雄市の実行委員会の方で、今、大会の開催に向けまして四つの専門部会をつくりまして、その中で体制、あるいは組織づくり、また、具体的な取り組みについての検討を進めているところでございます。

これまでの主な取り組みでございますけれども、広報用のステッカーの作成、これは教育部内の公用車を使ってやっております。そのほかにプログラム、ポスターデザイン、今御紹介いただきましたポスターですが、これについても作成をいたしておりますし、それから、レンタル用の不要になった自転車の募集をいたしておりますして、御寄贈をいただきました自転車につきましては、大会の参加者、それから、応援においでになった皆さんに御利用をいただけるようにということで準備を進めております。

それから、歓迎ムードを高めるというようなことで、PR活動面も進めておりますけれども、今後、大会会場の草花での装飾とか、周辺の歓迎看板、のぼり旗、そういったものの設置も計画をいたしております。それから、宿泊管理者、ホテル、旅館等の管理者の方を対象に、アスリートの方を迎えるに当たってのセミナー、こういったものも開催するようにいたしております。それから、入浴券の話が出ましたけれども、実行委員会の方といたしましても、大会参加者の皆さんに武雄温泉株式会社の御協力を得て、特別の無料の入浴券、これをつくって配布をするということにいたしております。

今後、煮詰まってまいりまして、関係機関、それから団体、それからボランティアの方々の多大な御協力が必要になってまいります。そういった方々の御協力を得ながら、市民協働の歓迎体制をつくって、大会を成功させていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど2部長から答弁がありましたけれども、かぎは市民のもてなしだと思います。今、沖縄で例が出ました。石垣であったり、与那国であったり、あるいは波照間とか、やっぱり観光客のふえよところは、あれは一つは法則があります。それは地域住民が、行ったら声ばかりかけるわけですね。「どこから来んさったですか」と、佐賀弁じゃないと思いますけれども、そういうふうを迎え入れる方が声をかけるわけですね。観光客の皆さん、あるいは今回の団体の皆さんって、やっぱり緊張して来とんさっけんが、なかなか自分から声をかけることはないし、声ばかりけれんやったら、ああ無視されたというふうになりかねんわけですね。そういう意味で、一人でも多くの市民の皆さんたちが声をかけると。最初はおはようでもこんにちはでもよかと思うとですよ。そういうふうにして一人でも、それが多分、観光客と

か来てもらった人たちの一番印象に残ると思います。その証拠に、ドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」のロケ隊の皆さんたちが一番印象に残ったのは、武雄市民のもてなしの心だったということを聞いて、また、あそこでロケをしたいと、やっぱり言いよんさっわけですね。そういうことを、ぜひ、我々もこういったことで学びましたので、武雄の市民の皆さんたちが、また来てもらうように、こちらから声をかけていく。こういったことで議員各位にもぜひ率先してお声かけをしてほしいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

東京マラソンの例をとったら、ちょっと趣旨が違うと思いますが、参加者が3万870人のうちに2万9,852人が完走したという記事が載っております。これは1万人以上のボランティアの方々のたまものだと私は思っております。7時間に及ぶ交通規制をしながら、警察の指導を受けてやった結果が大成功につながったと思っております。高校総体とそれとを比較してはいけませんけれども、今度の総体のロードレースに対して、ボランティアの方々がどのくらい必要なのか、お答えがありましたらお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

大会を成功させるためには、とにかくボランティアの方々の多数の御協力を得らんといかんということははっきりいたしておりますけれども、まだ具体的に数字を、今現在のところ持ち合わせておりませんけれども、具体的にになり次第、各団体等への協力要請をいたしまして、バドミントン、あるいはサイクルロードレースですね、自転車のロードレース、そういったところで、特に自転車の方が多数の御協力を得んといかんというふうに思っておりますけれども、明らかになり次第、協力要請をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

15番石橋議員

○15番（石橋敏伸君）〔登壇〕

私もスポーツは大好きであります。そういったボランティア等には私率先して参加しようと思っておりますので、議員の皆さん方も一緒になって応援していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上、質問を終わりますけれども、皆さんに、きょう私4番目ですけども、1時35分で終わりましたけれども、この中で、今夜の宣伝をさせていただきたいと思います。消防団によります文化会館でのミュージカルがありますので、皆さんこそって、6時半から開演であ

ります。それも重ねてお願いして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。